



かもみーる通信



69号 2016年3月



トピックス

- * ジェンダー関連授業
- * カモミール月曆
- * 英語プレゼン・論文セミナー
- * ぎふ清流参画ネット
- * researchmapセミナー
- * 社会活動演習
- * 退任室員からのメッセージ
- * 事務・技術系職員アンケート
- * 事務系職員交流会

ジェンダー関連授業ご紹介

岐阜大学の平成28年度ジェンダー関連授業の中から、今回は男女共同参画推進室がコーディネートする前期授業をご案内いたします。（担当：相原征代 特任助教）

<労働とジェンダー>

全学共通教育科目 前学期 火曜日3限

授業概要

ジェンダー学的視点による 社会問題の再検討

少子化、晩婚化、男女別姓、不妊治療、子供虐待など、新聞等のメディアでよく取り上げられている「社会問題」は、いったいどのような背景からそれらが「問題」として扱われているのでしょうか。この講義では、よく目にするテーマの「問題点」をジェンダー学的視点から再検討し、学生自らの視点でこれらの問題点の「再構成」を目指します。

到達目標

ジェンダーをめぐる身近な社会問題を学生自らが再検討し、多角的視点からの問題分析能力を身につけながら、「現代社会の中でジェンダーという概念がいかに深く根付いているか」について総合的な理解をめざします。

第 1 回	ガイダンス この授業でどのようなことを学ぶのか？
第 2 回	「ジェンダー」とは？ 「セックス」との違いとフェミニズムの歴史①
第 3 回	「ジェンダー」とは？ 「セックス」との違いとフェミニズムの歴史②
第 4 回	少子化① -そもそも「問題」なのか「問題ではない」のか
第 5 回	少子化② -データで見る、現代日本社会の現状
第 6 回	少子化③ -将来への対処は？
第 7 回	「結婚するかもしれない症候群？」① -結婚をめぐる日本社会の現状
第 8 回	「結婚するかもしれない症候群？」② -パラサイトシングルと晩婚化
第 9 回	「結婚するかもしれない症候群？」③ -家族の多様性を認める社会へ
第 10 回	一夫一婦制（異性愛強制秩序）と同性愛① -ヨーロッパのキリスト教的な一夫一婦制の歴史
第 11 回	一夫一婦制（異性愛強制秩序）と同性愛② -日本の歴史
第 12 回	レポートの書き方
第 13 回	規範遵守の「自由感」と「強迫観念」 -フランスの「トップレスの社会学」の例①
第 14 回	規範遵守の「自由感」と「強迫観念」 -フランスの「トップレスの社会学」の例②
第 15 回	規範遵守の「自由感」と「強迫観念」 -フランスの「トップレスの社会学」の例③



カモミール月曆 (室長からのメッセージ)



副学長 (多様性人材活力推進担当) 林 正子

昨年2015年7月号以降の「かもみーる通信」で、岐阜大学・岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社が連携して取り組んでいる文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」(事業期間 2015年度~2020年度)の取り組みについてご紹介を重ねてきました。今年度最後の「月曆」も、連携事業「地域循環型女性研究者育成・支援プログラム」=「清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト」の活動報告(一部)で締めくくります。

◆ 2月18日(木) トップマネジメント・セミナーは、岐阜大学教育研究評議会委員30名と共同実施機関の幹部を対象に開催しました。藤井良一 名古屋大学前理事・副総長に、「大学活性化戦略としての女性研究者育成・支援の取り組み——名古屋大学の事例紹介——」と題して、指導的地位に占める女性研究者(女性PI)の増加、若手女性教員の育成、研究環境支援整備充実(キャリア継続支援)など、名古屋大学の実効性のある取り組みから、女性研究者登用・育成・支援に係る具体的な数値目標達成のための示唆を得るとともに、女性研究者の採用・在職比率向上を実現する具体的な方策についてご教示いただきました。

◆ 2月22日(月) ワーク・ライフ・バランス講演会は、連携型共同研究に採択された「岐阜の大学生と企業における男女共同参画に対する意識調査」(研究代表者:大藪千穂 教育学部教授)において企画されました。内閣府 少子化社会対策大綱の具体化に向けた結婚・子育て支援の重点的取組に関する検討会 座長代理をお務めになっていらっしゃる渥美由喜(株) 東経経営研究所主任研究員によるご講演「みんなで学ぶワーク・ライフ・バランス ~ 岐阜をダイバーCityの先駆けに ~」は、岐阜大学・岐阜女子大学の学生を中心に、サテライトキャンパスの大講義室が満員状態の盛況となりました。「ワカちあい ラクあり、くあり バトンリレー」のワーク・ライフ・バランスは、「幸せへの道しるべ」であるという、渥美氏の軽妙かつ奥深い語りに、女子学生の皆さんが頻りに首肯している様子が印象的でした。

◆ 2月29日(月)には、国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)からの訪問調査。昨年11月9日(月)キックオフ・シンポジウムにて基調講演をご担当くださった 山村康子 プログラム主管と、今西一憲 主任調査員にお越しいただき、連携協議会メンバーと人材開発部職員育成課スタッフ全員でヒアリングに臨みました。4機関連携しての取り組み内容と数値目標の達成状況をご報告し、山村POからは、本事業が特長としている女性研究者の「地域内流動性」をより進展させること、応用生物科学部での女性限定公募を工学部にも拡大すること、4機関合計の採用比率と上位職比率の向上をめざすことなど、数多くのコメントや貴重なご助言をいただきました。日本の女性研究者比率は、年0.2%ずつの微増に止まっており、20%達成は2041年、30%達成は2091年となってしまう状況についても認識を深め、4機関の目標達成が強く求められていることを痛感した次第です。

◆ 3月4日(金)には、WTT(ウーマン・テニューア・トラック)制度で矚目すべき成果を挙げている岡山大学の「JST事業 キックオフ・シンポジウム 次世代・コア世代女性研究者が花開く支援を目指して」を聴講。基調講演とパネルディスカッションを通じて、名古屋大学、岡山大学、九州大学、神戸大学、お茶の水大学の先進的な取り組みについても学びました。各大学の「グッド・プラクティス」については、紙幅の都合で次号の「月曆」にてご紹介いたします。

英語プレゼン・英語論文セミナー



2月15日（月）と16日（火）に、英語セミナーを開催しました。岐大・岐薬大・岐女大から女性研究者合計8名の参加があり、「少人数で密度の濃いセミナーだった。1日中英語漬けになるのはよい。」「すぐに使える情報・知識をたくさん得られた。」などご好評をいただきました。



ぎふ清流参画ネット



2月19日（金）に、ぎふ清流参画ネット（自治体意見交換会）を開催しました。例年に比べて参加者が少なかったのですが、「かえて緊密な意見交換ができた」との意見もありました。普段交流のない自治体同士が意見交換できる場として、有意義な意見交換会であることが再確認されました。

researchmapセミナー



2月22日（月）に、研究推進・社会連携機構主催によるリサーチマップセミナーが開催されました。リサーチマップは国内最大級の研究者情報無料データベースで、全学的に活用する方針を打ちだしています。連携機関にも活用されれば、女性研究者による共同研究の輪が広がる可能性があります。セミナーでは、他大学の導入事例などが紹介され、興味深い内容となりました。



社会活動演習

2月20日（土）、4年目を迎えた、地域科学部1年生が企画する「地域の子育て支援」イベント（社会活動演習）が、男女共同参画推進室の後援で開催され、6組の親子と20名の学生が、ゲームやマジックショー、親子で楽しむダンスパフォーマンス、子育てトークの行事を満喫しました。



イベントのクライマックス☆ダンスパフォーマンス

見て、見て！
キマッテルでしょう？

楽しかったね☆
来年もまた参加したいな♪



イベントを終えて、参加者全員集合！

退任室員からのメッセージ

教育学部 久保 倫子 助教

カモミール子ども大学担当として、2年間大変お世話になりました。個人の能力以外の要因（年齢、性別等）で不利益を受けることなく、最大限能力を発揮してそれが評価される社会になるには、まだ時間が必要なようです。地理学では女性は少ないかもしれませんが、優秀な研究者は年齢や性別に関係なく評価されていますし、国際的に活躍する人も増えています。女性だからジェンダーや女性の領域とされている分野の研究をする、という時代でもありません。一研究者として評価されるように精進したいと思います。

工学部 新村 昌治 教授

2年間の任期の間にいろいろ学ぶことができました。夏の子ども大学では、子どもたちと一緒にドクターヘリを見学し、わくわく・ときどきで、たくさん質問をしてしまいました。また、研究補助員制度の選考では、介護や子育てを担いながら苦労されている女性教員・女性研究者の話を直接お聞きしました。今日では制度上の女性差別はほとんどありません。しかし、それだけでは実質的な差別をなくすことはできません。個別の状況に応じた支援策を講じることの大切さを学ぶことができました。室員として学んだことを生かしていこうと思います。ありがとうございました。

事務系・技術系職員就業と家庭生活との両立のためのアンケート

このたび、岐阜大学男女共同参画行動計画に基づき、就業と家庭生活との両立を図るための具体的方策を実施する際の今後の参考とするため、事務系・技術系職員を対象に、標記調査を実施しました。

アンケートを踏まえて、育児中の親の交流会を開催するとともに、多様な働き方の導入および長期休暇中の学童保育等の支援について検討を開始しました。

小学生以下のこどもを持つ事務系職員のための交流会

2月8日（月）カモミール・カフェにおいて、育児中の職員7名と林 正子 男女共同参画推進室長、相原征代 チーフ・コーディネーター、清水則之 職員育成課長はじめ関係職員が参加して交流会を開催しました。この交流会は、小学生以下のこどもを持つ事務系職員の交流により、仕事と子育ての両立に関する悩みや職場環境に対する要望等に関する情報収集をおこない、今後の本学の両立支援の取り組みに活かす目的で実施したものです。

主に、「育児部分休業」「小1の壁」「小4の壁」「病児・病後児保育」の4点が話題となり、大きな課題として、残業をしなければ仕事が回らない部署が多く、配属先によって育児と仕事の両立の困難さにバラツキがあること、制度を利用したくても、周囲への迷惑を考慮してしまい制度が利用できない人が居ること、役職者が制度を利用しにくいこと等が挙げられました。

今回の交流会は初めての試みでありましたが、参加者全員から「有意義であった、今後も交流会の開催を希望する」との意見が寄せられました。



岐阜大学男女共同参画推進室（人材開発部職員育成課男女共同参画係） URL： <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 Tel：058-293-3378 Fax：058-293-3396 E-mail： sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。